

健診データからみた糖尿病の有病率・治療率・コントロール率 ～血糖コントロール不良群の特性～

【はじめに】

糖尿病対策のために、糖尿病の有病率、治療率、コントロール率を把握しなければならない。徳島県総合健診センターは徳島県内の特定健康診査、定期健康診断等を数多く実施しており、そのデータを利用して糖尿病の受診状況、血糖コントロール状況の分析を行うことが可能である。また、コントロール不良群は血糖コントロール良好群等に比べて生活習慣や他の因子に差があるかどうかを検討したので報告する。

【方法】

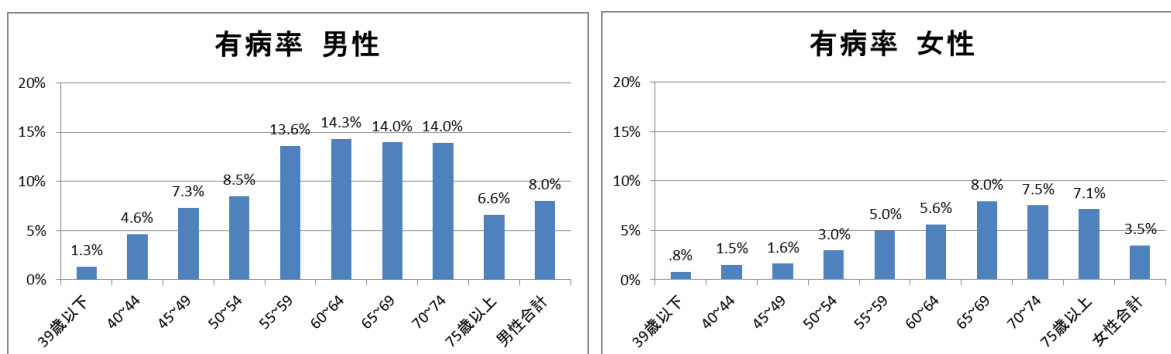
平成24年度、徳島県総合健診センターを受診した人のうち、血糖値あるいはHbA1cを測定した34,641人を対象とした。糖尿病有病率は空腹時血糖126mg/dl以上、随時血糖200mg/dl以上、HbA1c(JDS)6.1%以上のいずれか、または薬物治療有りの人の割合とした。有病者のうち、薬物治療有りの場合「治療者」とし、治療コントロール「良」は空腹時血糖130mg/dl未満、随時血糖180mg/dl未満、HbA1c6.5%未満の基準を満たす人とした。

徳島県総合健診センター内の倫理審査委員会の承認を得て解析を実施している。

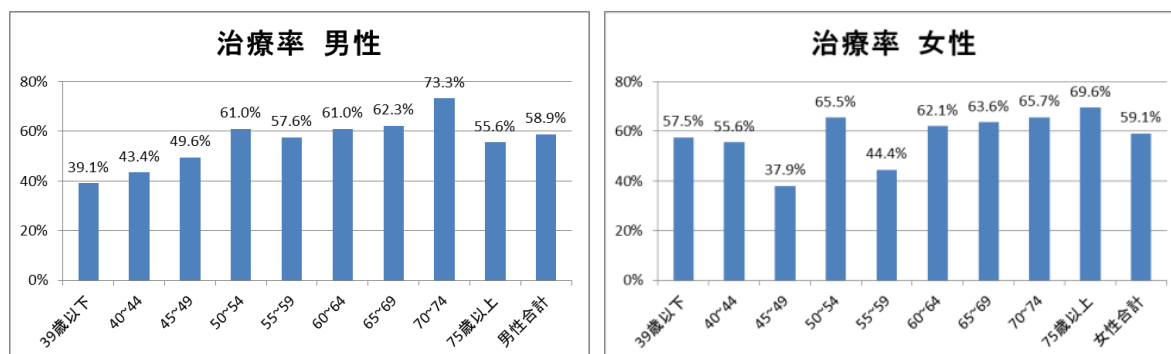
【結果・考察】

対象者34,641人（男性16,799人、女性17,842人）のうち、39歳以下は9,759人（男性4,857人、女性4,902人）、75歳以上は594人（男性272人、女性322人）であり、他の5歳階級別人数は男女とも約1,500人ずつであった。

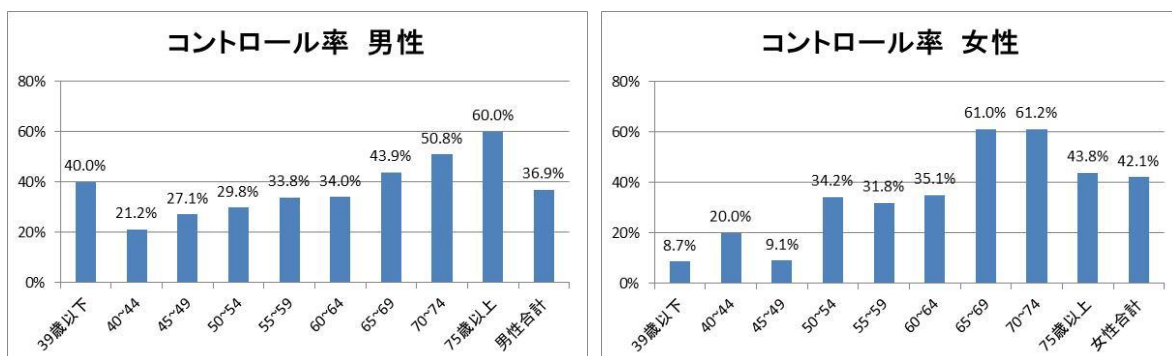
有病率は55歳から74歳の男性が14%と多く、女性は全体的に男性の約半分であった。



有病者のうち治療している率は年齢とともに増加傾向だった。全体の治療率は男女とも約6割だった。

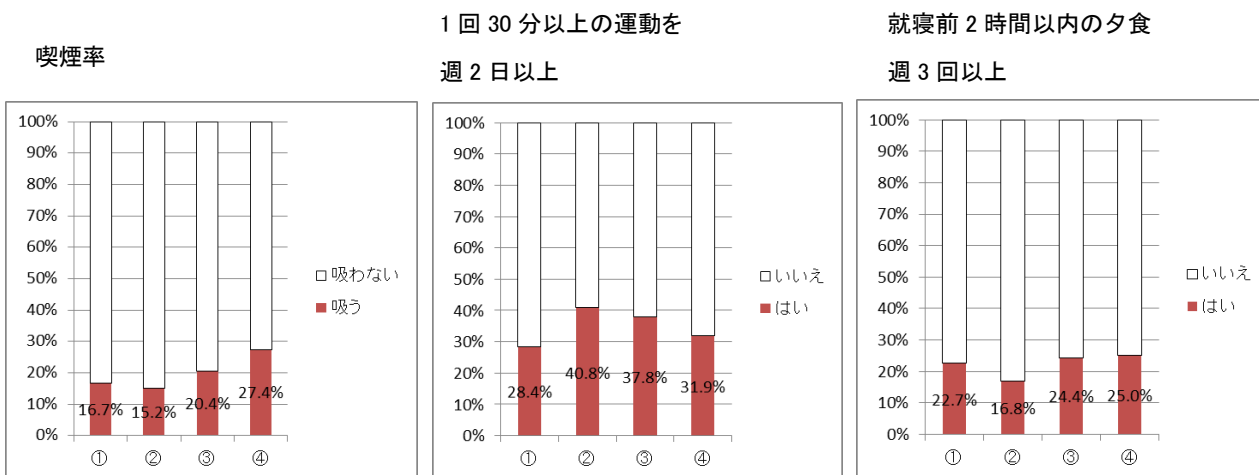


治療者のうち、コントロール良好の率は男女とも全体で約 40%と低かった。特に年齢が低いほどコントロール率が低い傾向だった。



次に全体を①非糖尿病群(32,665 人)、②糖尿病治療・コントロール良好群(448 人)、③糖尿病治療・コントロール不良群 (715 人)、④糖尿病未治療群(813 人) に分けて、生活習慣等の比較を行った。

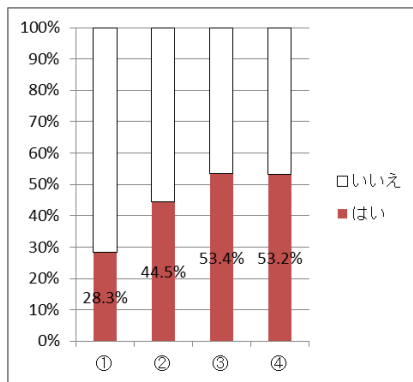
	男性	女性	計
①非糖尿病群	15446	17219	32665
②糖尿病治療・コントロール良好群	293	155	448
③糖尿病治療・コントロール不良群	502	213	715
④糖尿病未治療群	558	255	813
計	16799	17842	34641



喫煙率が最も高いのは④の未治療群だった。運動習慣はコントロール良・不良ともに治療群で多いことが観察された。遅い夕食の習慣について、特に有意差はなかったが、治療していてコントロール良好の群で少ない傾向だった。

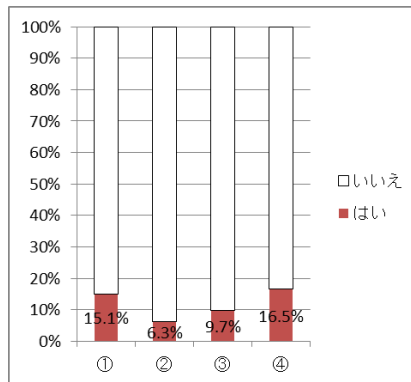
20歳時から10kg以上

体重増加

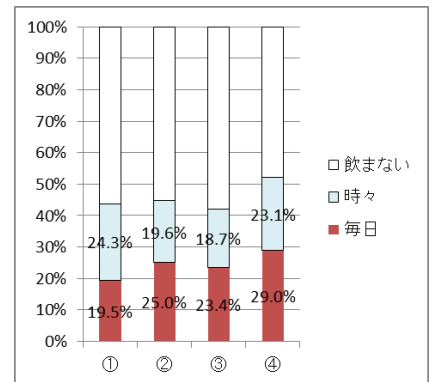


朝食を週3回

以上欠食



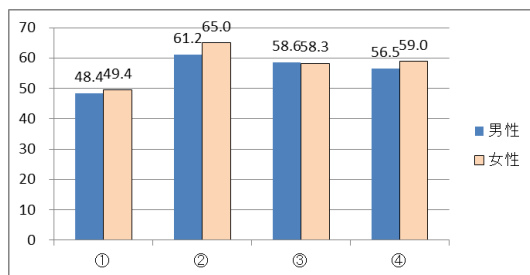
飲酒頻度



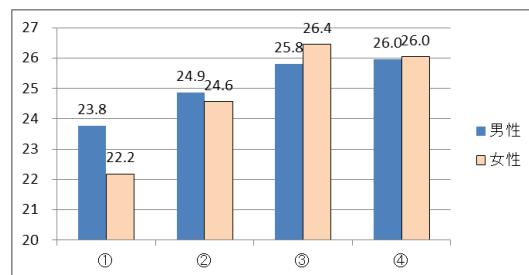
「20歳時から10kg以上体重が増加している」と答えた人はコントロール不良群や未治療群で53.4%、53.2%と多かった。朝食欠食は治療群で少なく、非糖尿病群と未治療群に多かった。お酒を「毎日飲む」割合は、未治療群で最も高く、29%だった。

検査値について4群を比較した。年齢等の平均値を下に示す。

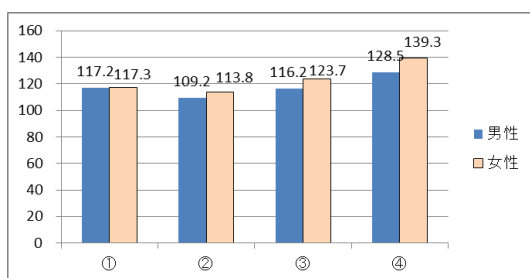
年齢(平均値)



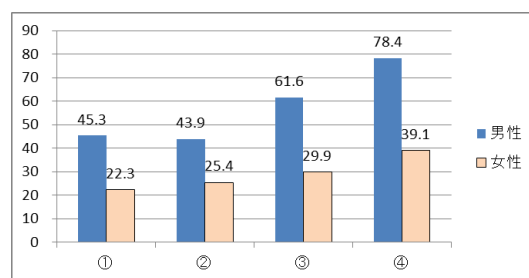
BMI(平均値)



LDLコレステロール(平均値)

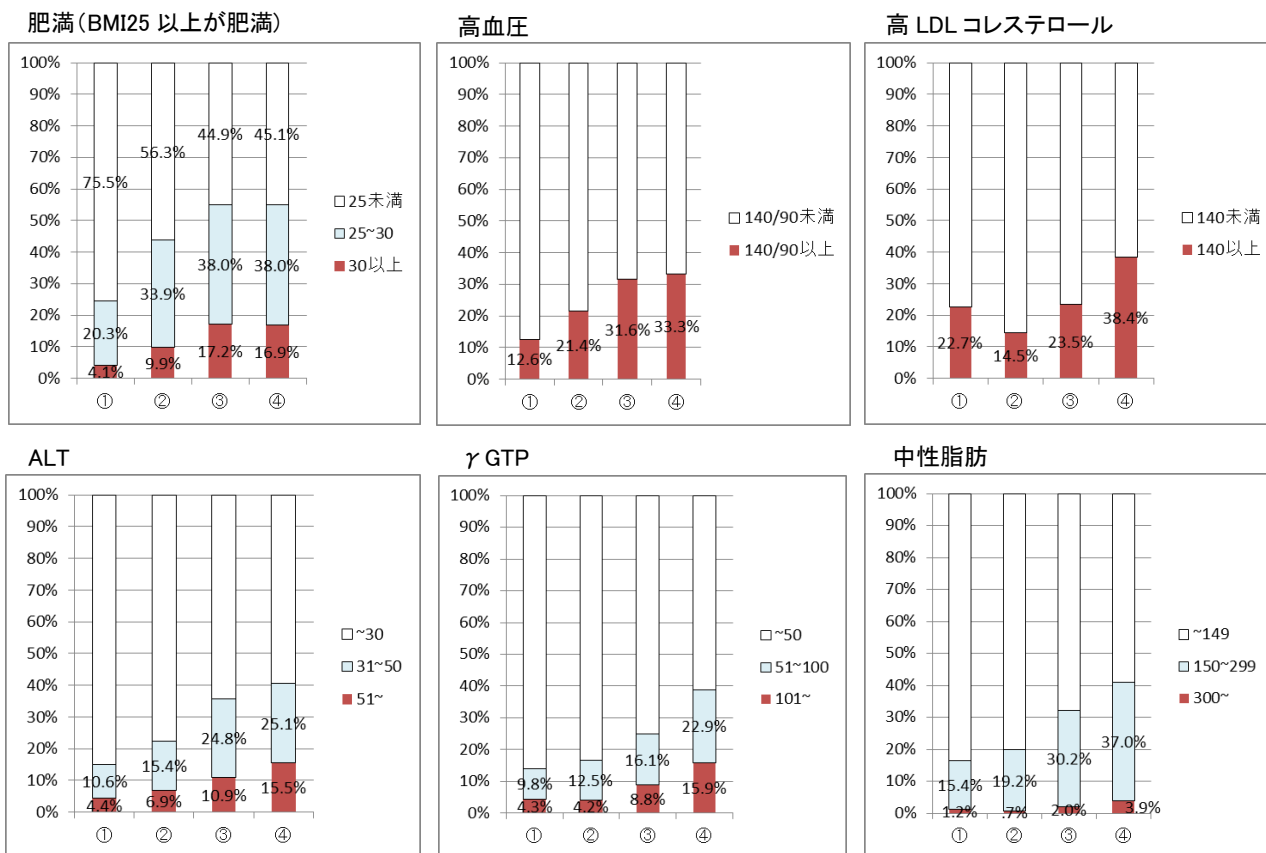


γGTP(平均値)



治療していてコントロール良好な人の年齢が最も高い。体格指数である BMI (体重 kg ÷ 身長 m ÷ 身長 m) の平均値はコントロール不良群と未治療群が高く、男女とも 25 以上だった。LDL コレステロールの平均値は未治療群が最も高く、男性 128.5、女性 139.3 だった。γGTP の値は男女とも未治療群が最も高かった。

4つのグループの各異常値の割合を示す。



コントロール不良群 (③) と未治療群 (④) は半数以上が肥満 (BMI25 以上) であり、BMI30 以上の人も他の2群より多いことが示された。血圧は受診時に収縮期血圧 140mmHg 以上または拡張期血圧 90mmHg 以上を高血圧として判定すると、BMIと同様、高血圧は③と④が多い傾向だった。LDL コレステロールの値が 140mg/dl 以上の割合は未治療群が最も高く、治療良好群 (②) が最も低かった。肝機能検査である ALT 高値の割合は①②③④の順に高く、γ GTP・中性脂肪も同様だった。

今回の結果から、若い年代は糖尿病にもかかわらず、治療していない率の高いことがわかった。また、若い世代 (40 才から 64 才) は若いほど、治療している場合であっても、コントロール良好の人が少なく、不完全な治療、または治療中断気味であることが考えられる。

また、治療しているかどうかも含めた4群の比較によって、未治療群には多くの問題がみられた。すなわち、未治療群はタバコを吸う率が高く、運動をあまりせず、朝食を欠食する人、毎日飲酒する人が多い傾向だった。検査値からは肥満、高血圧、肝機能異常、脂質異常も多いことから、早急に介入すべきである。

【結語】

働く世代において「良い生活習慣」の実行が困難であったり、受診困難であったりすると考えられた。より積極的な産業保健的アプローチが必要である。

(2015年2月6日、四国公衆衛生研究発表会示説内容)